

広島部落解放研究所 40周年にあたって

広島部落解放研究所理事長 渕上 和俊

広島部落解放研究所は、1971年10月5日、広島県同和教育推進者研究会（広同推）を母体として、歴史、経済・社会、憲法・行政法、運動理論、教育、行政の各部門の研究者・実践者を結集して、設立されました。そして、事務所をみゆき会館・カレントコスモに置きました。

研究員の著作として、『「憲法と部落問題」』（高野真澄）（1974年）、『広島県・被差別部落の歴史』（1975年）、『実践同和教育論』（1977年）などを発刊しました。これらは、多く利用され、高く評価されてきた研究所の財産のひとつです。

また研究所は、1992年に、現地学習会を信州（差別戒名・マツシロ、一茶）で行なったのを皮切りに、その後、岡山・高知・沖縄、北海道・奄美大島、北陸と、さまざまな所で行なってきました。それらの報告書を『人権学習テキスト』として、1993年から発刊してきました。各講座のまとめも、「シリーズ」として発刊してきました。これらは、研究所の財政にも大きく寄与してきました。

行政の依頼による実態調査も、行なってきました。組織を挙げて取り組んだ実態調査に、1980-81年に三次市で行なったものがあります。その報告書は、900頁を超える大部のものになりました。その後、1983-84年には、県北1市4郡の各町村における被差別部落の実態調査および住民の意識調査を行ないました。そのときは私も参加して、甲奴町へ入りました。調査の意義や方法について学び、また、まとめの共同討議と地区住民との交流のなかで、差別の現実深く学ぶことができました。その後、実態調査はしばらく中断しましたが、1996年に、世羅町の同和问题についての社会意識調査を行ないました。1998-99年に、そのまとめをテキストにして、それを持って、住民啓発の学習会に講師団を派遣しました。私は、すでに定年退職していましたが、これにも参加しました。行政も、学習会の取り組みに熱心でした。今から考えれば、その頃は、同和行政最後の盛り上がりであったので

しょうか。

研究所主催の解放講座として、各年、憲法講座や同和教育基礎講座、行政・教育講座、人権講座を開催してきました。多くの教職員、行政職員、企業関係の人がそれらに参加し、講座は、広島県内の同和問題学習の拠点といえる役割を果たしてきました。初任者研修には、学校も行政も、公費での参加というかたちで、支えてくれました。その他に、部落解放・市民啓発講座を部落解放同盟広島県連合会と共催して、県内2箇所で開催してきました。

このように、研究所の活動は、県内外の多くの研究者や実践者に支えられて発展してきました。また、財政も支えてくれました。

しかし、1998年度に、文部省・県教育委員会の「是正指導」があり、まず「ヒノ・キミ」(日の丸・君が代)の強制が始まりました。そして、同和教育、解放運動との連携を完全に否定する動きが始まりました。さまざまな自主研修活動も、妨害されました。

2002年3月には、法的財政処置の廃止、同和行政の一般行政への移行によって、同和行政が後退し、そのため、研究所の講座などへの参加者が激減して、今日に至っています。

研究所も、財政難のため、広島市内のカレントコスモの事務所が維持ができなくなり、2004年度からは、尾道市の部落解放同盟広島県連事務所の一角を借りて、今日に至っています。研究部は、広島市内の青木部会長(現所長)のところに置いています。

現在、研究所には国際部会、宗教部会、教育・啓発部会、歴史部会がありますが、困難な状況のなかで活動を続けており、一部は、活動の中断をよきなくされています。

1994年に、研究所の研究紀要『部落解放研究』の発行が始まり、14号からは合評会も開かれるようになりました。研究紀要は、2010年度で17号になりました。研究紀要の交換というかたちで、全国の研究機関と交流し、また近年は、世界の大学の日本研究機関にも送付し、高い紀要の評価を得つつあるところです。

1988年から、『研究所所報』も出されるようになりました。

研究所創立の40周年を迎えるにあたって、新しい「部落解放理論の創造」をまとめようということになりました。この紀要18号をもって、あらためて、広く全国の研究者や運動家に問題提起をしたい、そのような意気込みで発刊しました。皆さまの忌憚のないご意見、ご批判をたまわりたいところです。

東日本大震災では多くの命が失われました。福島の大震災事故は、チェルノブイリ原発事故にも匹敵する放射能被害を撒き散らして、その收拾

の目途さえ、まだ定まっていません。他方で、私たちは、権力からの攻撃、全国の部落解放運動の融和的体質、教育の閉塞状況といった困難な課題に直面しています。私たちの研究所は、活動の縮小をよぎなくされてはきましたが、研究活動の質は、むしろ深まっています。研究所が、「闇を照らす光たらんとする。」私たちは、そのような誇りをもっています。広島県連とも、「研究と議論」の絆で結ばれています。40周年を期に、今度は、参加者の拡大に努めたいと思っています。そして、部落解放の研究と運動に逆行する動きに「やり返したい」と思っています。

皆さまには、今後ともよろしくお願い申し上げます。